

西ボヘミア大学（チェコ）
ART CAMP 出張講義報告書

2024年7月22日～26日

短期大学部・造形学科 美術コース

八木なぎさ

講座：

「Peel and Strip Prints
– New Print Art from Japan」

参加者：17名

FDU に入学希望している学生
FDU イラストレーション専攻の学部生
他校の学生
イスラエルの学生
ウクライナからの学生
チェコ在住高校の先生 など



7月22日(月)

- 9:00-12:00 スライドによる講義(日本の伝統木版と創作版画運動について)、スライドによるメディウム
*アクリル絵の具を使いモノトーン制作の説明とデモンストレーション、制作実習
- 13:00-16:00 メディウム剥がし刷り*キットパスを使った多色展開の説明とデモンストレーション
アクリル絵の具、キットパスによる制作実習
- 18:00-21:00 プルゼニ-共和国広場周辺の散策



初日はモノトーンでの実習。
ボール紙とクラフトテープで半を作るところからボール
ペンで描画するところま
アクリル絵の具を使い
具を詰めて乾燥
セバレンで密
モノトーン
で、

ンで密
くりと剥が
ルペンで描いた

ボール紙とクラフトテープで半を作るところからボール
ペンで描画した部分に、ゴムベラで絵の
させ、メディウムをローラーで塗り、紙をの
着させる。
の基本的な動作が全ての基本になるの
通訳のカリンさんの言葉を借りな
がら丁寧に確認。

貼り付けた紙が乾燥したの
を確認し、先ほどバレ
着させた紙をゆっ
すと、先ほどボー
イメージがクッキリと

浮かび「ワー！！」っと歓声上がる。まずは成功してホッとした。デモンストレーションの後、受講生がそれぞれ作品作りに取り掛かる。午後はキットパスを絵の具の代わりに使う方法を説明。

最後に受講生を集めて初日の作品を講評する。メディウムがうまくつかなくなかったり、絵の具やキットパスが描画した線にうまく詰められていなかったりしたが、それぞれ何作か初めての剥がしずり作品を作れた。

7月23日(火)

9:00-12:00

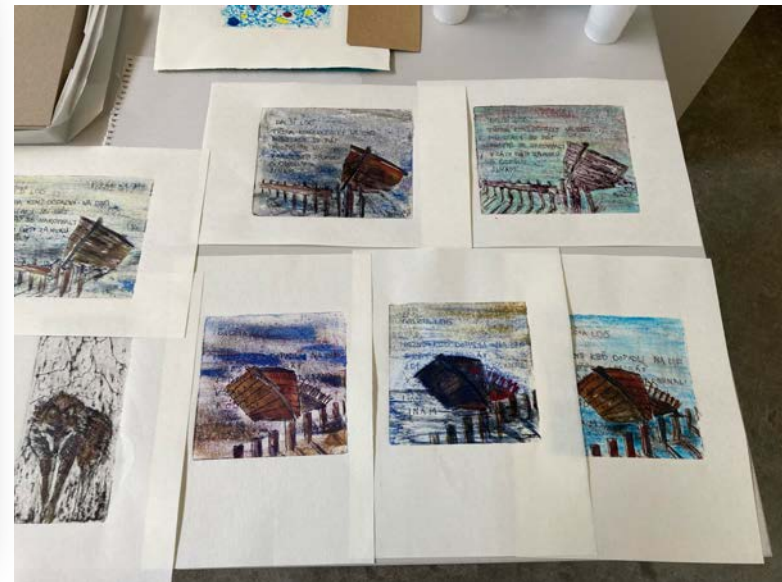
メディウム剥がし刷り技法*メディウムによるレイヤーを使った多色展開のデモンストレーション、制作実習

13:00-16:00

メディウム剥がし刷り*クラフトテープの版に線描を使わず、ドローイングによるアブストラクトの制作を説明、デモンストレーション、制作実習

18:00-21:00

GAFA Gallery オープニングパーティーに参加(大学院生3名のグループ展)、FDU 美術学部長、ART Camp ディレクターなど、8名で歓迎会



午前中はメディウムでレイヤーを作り多色に展開する方法を説明。制作スペースも版を作るスペースとメディウムを使うスペース、乾燥させるスペース、完成作品を置くスペースにわける。学生も技法に慣れてきて、制作しやすくなった印象。どの学生も制作意欲が旺盛で、アイデアも豊富。どんどん作品作りに取り組んでいる。2日目も最後に完成した作品を皆で見ながら講評する。

7月24日(水)

9:00-12:00

メディウム剥がし刷り技法*メディウムによるレイヤーを使った多色展開の制作実習、各自がこれまでに学んだ技法を選択し自由に制作

13:00-16:00

参加学生全員で作品を交換し画集を作ることを提案。テーマを皆で考える→「SPACE」に決定。作品(紙)サイズはA5サイズとする。皆、即座に制作に入り、どんどん制作する。

18:00-21:00

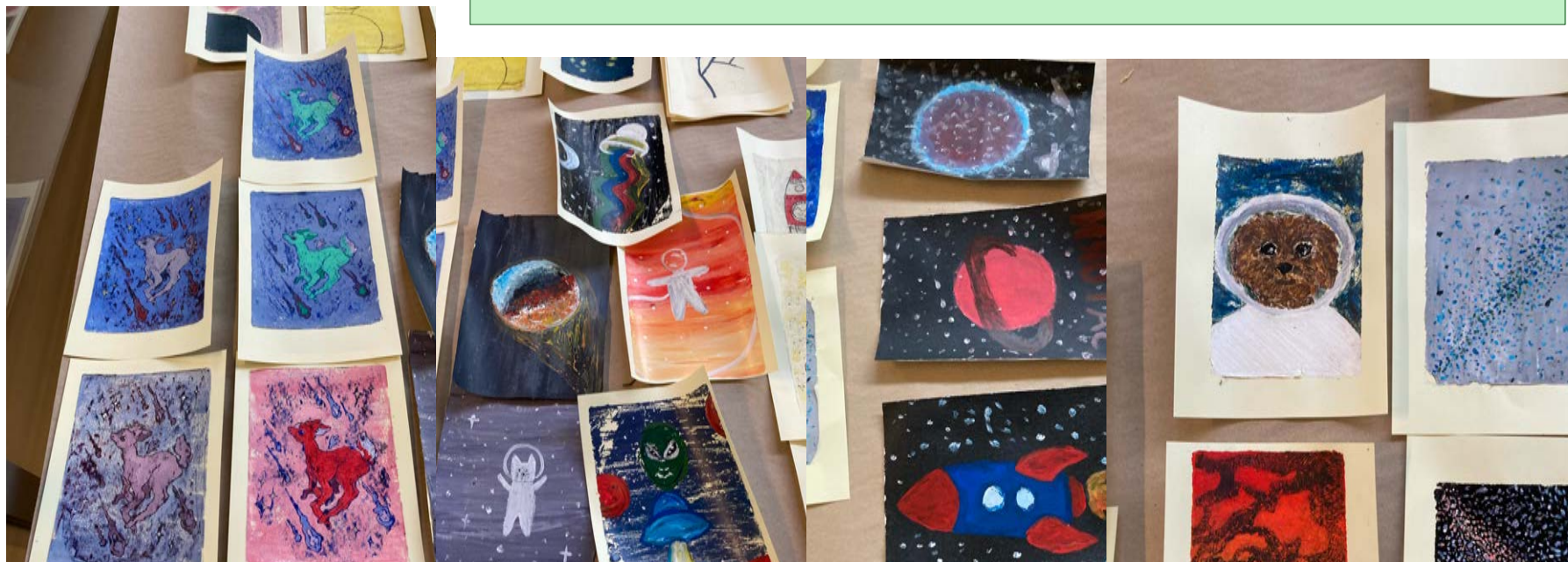
ART CAMP Talks #3「ドローイングとイラストレーション: Marto Kelbl」、「自らのアイデンティティを芸術的創造に生かすには: Daniel Jirkovský」、その後学生の制作した映像を鑑賞 (Druzba Café)



3日目: 熱心に取り組む姿勢の成果が出て、個人のスキルが目に見えて向上し、表現力も増している。またそれぞれの個性が出て、作品の方向性がどんどん広がっていくのは見ていて嬉しい。午後、作品を交換し制作する小画集の提案に、皆快く賛同してくれた。テーマも決まり、さあ制作・・・というところで、残りの制作時間を考慮し、作品サイズを予定していたA4からA5に変更する。

7月25日(木)

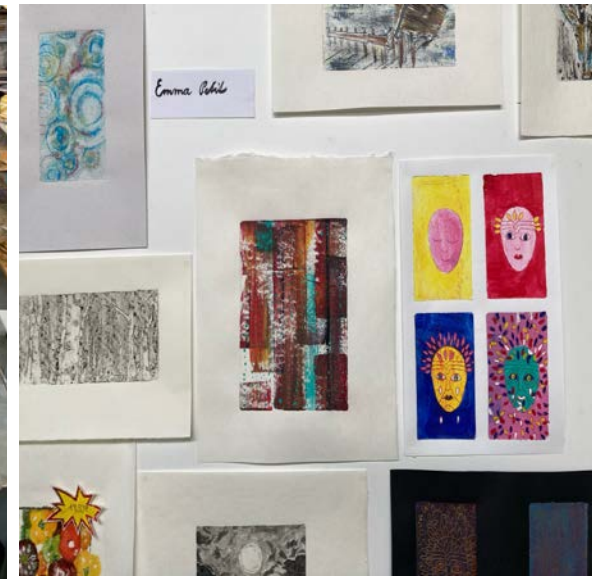
9:00-12:00 交換する画集作品を制作、各自 20 点は制作しなくてはならず、真剣に取り組んでいる。
13:00-16:00 画集作品の制作が終わった学生は自由に制作できるが、早い学生も午後いっぱいばかりそう。同じ作品でエディションをキッチリ作る学生と、モノタイプで自由に描く学生がいる。
18:00-21:00 ADOLF LOOS の設計したブルゼニ市内の建物を見学するアクティビティーに参加。
8 軒残っている中からセムラー邸を選択。2013 年以来 3 段階の改修工事を経て 2022 年ようやく一般公開されたロース様式の「ラウムブラン」が見られる。



4 日目：授業は画集の作品作りに没頭する学生に任せ、他の授業の様子を見て回った。ストーリーボード、アートブック、ジュエリー、人物ドローイング、インテリア、バーチャルリアリティー、ペインティングなど様々あり、どの授業も進め方に工夫が見られ面白い。校舎は教室の間仕切りがなく天井も高く開放的で、隣の授業が邪魔にならない広さがある。自分の授業に戻ると変わらず学生が猛然と制作中、作品がどんどん出来上がっていて感動する。

7月26日(金)

- 9:00-12:00 画集の作品がまだ終わっていない学生は続きの制作。終わられた学生は自由に制作をする。第1日目から制作した作品を展示する。
- 14:00-15:30 参加学生全員で作品を交換し、小画集を作成。エディションした作品を全て展示。総数 500 点余りの作品群は圧巻。美術学科長とアートキャンプリーダーから参加者への挨拶。
- 15:30- ART CAMP 参加者の学生に第3クールの修了証書を渡すセレモニー
皆と集合写真を撮って別れを惜しむ。
- 17:00-19:00 プルゼニ市内の展示を見る(旧市庁舎、カフカの周辺展など)



最終日：午前中、画集作品が完成していない学生は9時前から制作。11時頃にはほとんどの学生が制作を終え、ひと息ついていた。学生の制作を邪魔しないように可動壁に作品を展示する。午後、展示とエンディングのイベントがあるので、机の上を片付け始める。画集の作品も見応えがあるので床を使い作品を全て並べた。全部で500作品ほどあり、皆やり切った！FDUの美術学部長とアートキャンプディレクターレンカ先生からエンディングの挨拶があり、その後修了証を渡すセレモニーを行う。

Photo Album

授業風景・アクティビティ風景

